俳諧孫鈔 後編 六

へ 5
1128
13

へ5
門
播
卷

能楷袖珍抄遺語之部

古經舍點池輯

一 第四章代ハ易ハ一ツ時の変化ハ
代二ツ 変化ハ一ツ也 ハ風
行の体ニ不易

初ヲ始ト云ハ変化ハ不易と云ハ新古ヲ
ヨウ云ハ変化ハリ也 かくそ云
ヨウをまよく云へる深く代これ
あ人の奇を可ハ代くを変化
阿ハ又新古ヲ也 ハ代こ云
や者見ハ よかそ云ハ云ハ
ヨウヨウ見ヘ不易と云ハ
又ヲ変方化する物ハ自然の理
変化ヨウ云ハ云ハ
化見ヨ押ハ云ハ云ハ一端ハリ
ヨハ質財をそ云ハ
様をを知ハ変化ハ心
をこくさ云ハ物の変化を知
ヨハ只人ハ物やうハ行の
ヨハ也ハ丈を居

うくく一おり月雪よすむ程く仏来
いくさの変万化すること古も倫まも古
人の法をあむことあり四時の押
うつることく物ゆくすることあり外
のとしと宜う

一古者云々の條特に入るもの尚ふ
心の色物と物とに分て自然定るも
のなれハこゝ物自然うてなり
あり心の色うけ〜うこれハ
おのゝ泡をユかも色あるに様を
絶さるの俗と海を絶ること
俗特に古人の心を捨う迫くハ
海の心を絶ゝ〜其心を習
ものハ物とともに海の色ゆ〜そ
心をまゝ〜海の俗仲の法式
おひよく〜あくおの赤心のまち
を押直〜夜〜朝ゆ
ゝやうゝを絶ゝ〜海を絶
ゝとハ〜海の色ふ物ゆるもの
心を一ゝ物ゆ〜〜く私色ゆ



海の色を悦さ事門をけとく
ろゝ良〜て私のををけて
ゆく門人ゝ己を押直す人ゝ
ゆゝ私のくのハ私ゆ習人竹のゆ
ハ仲ゝ更ゝ海社泡の移しき私
色をなゆれゝゝいふゆゝ習へ
ゝゝ文をおのゝゆ〜れゝゝて行
ゆ習ハさるゝ習ハくゝ文ハ物ゝ入
て其流の海〜ゝれて情流ゝや
ゆゝとれゝ流ゝゝゝ人の海〜
ゝ云ゆて其物〜ゝ月雪ゝむる
情ゝ海〜ゝれハ物ゝ流ゝゝ二ゝ等
て其情流ゝ〜ゝ私色の流す
他色ゝ其海の心をゝゝく抜れ
はゝゝゝ文流心の色ゝゝ
ゝゝゝ作法せれハ抜ゝ又私
色海〜作法変撃せむゝものハ
須更ゝ私色ゝ流ゝゝ色ゝ情
ゝゝ作法変撃ゝ〜ゝ色ゝ
流の流〜ゝ名を地〜〜ゝ

とゝ[illegible]友の中に[illegible]切者と[illegible]
あひ[illegible]ゆの[illegible]ゆの[illegible]ま他ハ二定
の者ゝ[illegible]を[illegible]勉心の白[illegible]
のりしけ[illegible]ゆとく[illegible]
れ[illegible]れ切者の為を[illegible]
しあり常[illegible]
数すとゆく[illegible]
者ゝの[illegible]他ハ[illegible]
のをくす[illegible]とゆ[illegible]
投[illegible]
をそこあひ[illegible]
ハ[illegible]
ゝ[illegible]
者をすう[illegible]
八人切者ゝ[illegible]
きんと[illegible]
手口を閉て第一[illegible]
おの[illegible]
[illegible]
ゝ人[illegible]



早く他[illegible]
能者[illegible]
一云[illegible]
摩[illegible]
数を[illegible]
[illegible]
[illegible]

あり（中略）
外ものゝふとく強くて八倍大の
の三ぞやく三の丈夫心ゆゑ（中略）
とゝ（中略）
ゝ（中略）
一去年之新しゝ八統領の死に古
ゝ八死ぬくゝ本立のゝ
ゝる心地をゝる菊花之新
神の丈も新しみの匂ひ之
端を見まれるくを悦く
人ゝを発られしゆゑ
きめて体のをきれ八新しゝ
外しゝ（中略）
夜より一歩の月鉄之ゝ心地よ
下部ゝ（中略）
田のくりをゝ八深め不易之花
ゝと見て結島とゆくしそ
ゆゝ（中略）
一菊曰乾坤の変八世移のくね
あり静なるものの八不変の姿



外ゝ動るものの変ゝ時としてと発
されハとゝ（中略）
ゝ（中略）
ゝ（中略）
ハおゝ（中略）
消て強ゝ又白強ゝ
光ゝ（中略）
むゝ又逐白を白のゝ
すと云て強ゝ
ゝ発ゝる間ゝ
強ゝとすゝと強ゝ肉を
絶く物ゝ急すれ八共心の色白と
肉を常ゝつとあゝるものハ
あゝ私名ゝ
一菊曰体拾八先ん使美ゝて一強
ゝ八上ゝ又ゝ
ゝる八共強ゝ中ゝて多く
八地白ゝ云芳云師の白を強て共
ゝ
強ゝ本の死と八ゝ白ひゝ

此句八面白のおもしろさとのおもしろさ
うるはしさねともかくしけるさえな
ゝこゝろもとゝまるを後まして出
さる句なり
るゝ命を二十はかりちらし併の名
此句八恵ぬのみとゝまる人まつ〳〵れぬ
多の和とやみをうちふかうの
月と詠る中者を俳諧しての他
なり
うゝかゝ星も拙歌や岩の上
此句ハふやちの石のうへなひねをす
れハをゝ寄〳〵苔の名をもれす
かさゝみんとゝ心をえての他なり
ほとゝきゝ俳や五月の雨や名を
此句ハやとくまずなるやさろおの雨や
発句あやめもしらぬ恋もする
うれとゝ者此句を云ての句なり
廿日の月此月かすゝ山の稜線
いとゝくゝ弱の時もあるく〳〵
くゝ歌ぬ者と詠ずしてひなり



ゝゝ数里の中ゝ雑的ゝ
杜鵑の早行の形を水鳥の中ゝ
ゝゝして思おもろく
ゝ年移く移る月走〳〵家の時う
此句ハ古人の句を若出ず〳〵俳
情を思すしはめハる上戦うん
とゝて移る移月家の姿と詠を
てひてゝおてと神ゝとゝ
うゝのひ形ゝ句ゝ拍ゝ
ひとゝく月走〳〵家のゝつと直
されゝゝ
一 蜂蝶行ゝ年ゝ
此句物語の姿とゝ
の時句の者ゝ
うゝ月移も一葉ゝ
ておくゝれゝとゝ
一 釣ゝや昼も提おろす門の塩
作ゝて家ゝ
拍枝ゝ物のゝ
句曰此句ゝ

の句他の味ひ八重に入されハひ
くゝ〜かの人を神祇の山おろしよ
とある文字能のとく後のひゝてハ
くて家うゝ不ゐを工まして味よ
百〜とゝ

一　子給の喜やゝけ入者八重渡海

一尾根八おくゝ〜ふゝゝ空の不二
此句前日も〜大玉に入て白を浮
其心ハ浮う於丈の名ハゝ人が笑
富士ハてゝらんを川とうの山川に
てゝうゝみと云白ハ〜あと人住
白とても重ハ他を志〜されど
ゝ成も其心つゝひを見ゝ〜
又不二の句も山の姿これほどの
象平も好くて八笑山とゝ
ゝ〜と宣ゝ

一　梅若葉中ゝこれ加のとゝけ
此句前日たくみてゝる白ハ
此中とゝひてゝゝ〜と浴ゝく
和ゝる白ゝ幼のとくの白ハ又



きんとハのひゝゝ〜とゝ本義ゝ
むく人を射〜てゝの此ゝ梅ゝ
無〜ゝ中ゝこれ加ゝとゝ
ゝ弟ゝる一從ゝ

一　二月不もぬゝハ〜れ
此句八元日百中ゝ百ゝて俳ゝひて
つ〜ゝと御出ゝ〜白の対ゝ
日ゝ歌意ゝ〜ひ面ゝ趣向をえ
ゝ〜此ゝ〜ハ二月ゝハとゝ
ゝくゝまゝゝゝとゝひてハ
ゝ月ゝ〜ゝて〜ひ好く
ゝ〜と七芳ゝ廿角ゝ白ひ
ゝゝ〜ゝ字於の山とゝもゝハ
んとゝ面を浮ゝ〜ハゝゝ表
撰ゝ人ハゝ好ゝの数ゝゝ

一　荷紙や紙鞘の同寸のゝ水
支考ゝ白ハ和苔とゝとを八
ひのゝゝゝゝゝと云ゝ〜け
ゝ八且ゝひゝゝ〜ゝ表白ゝ
ゝされゝゝ行ゝゝゝゝゝ〜ゝ

おかうくし

一　伊勢良子の一分ゆゑ梅の花
古葉云氏句ハ一とを作りて詩
りひて句梅のとを為ひ
に子ゑの能のゆくりに漢一年古
よ梅ゆくりて分のこるく分と
社人の告ゆくをるとしてと
ゆくれくと句曰むくうゆ
ゆゑ連俳の連人おゆく句を
とくむ孫よび梅のをを
らん悦くゆゆくとく代特
のにのみよゆるとやるを
思ひまれいやすくぬをく
いれつをるとやみの浅梅や
氏句句曰門人氏をよゆやおゆ
をえくるものよひてつえす
句ゆくとくち芳云年ゆゆ
をいくんとえものゆけく
よゆはにつのひくそをまを
ゆすく



旅人とゆゆ名くえれんゆゆ対る
古葉云氏句ハ句武はを梅ゆのれ
ゆゆにのいさくくをるのゆに
ゆくゆくくくれん神対るとゆひ
くと宮ゆいさゆくゆにをゆ
すを旅のゆくをゆをくて芳
のとく章さくく人よおくれ
くと一風情ゆるものく孫くよ
能をくゆる海の心の出和を味ひ

一　ゆくく氏海老はゆ市をゆく鳥
句曰氏句をゆのゆをみくるとゆ

一　情翻の歯くゆるをく魚の后
ゆる句曰ゆひをすゆるゆ彩るも
の彩月懐さくくくとくかくくを
生てゆけん神松魚とゆゆゆ彩
打人のくゆをさゆ又曰猫の歯ゆく
時の月とゆゆ廿角く情翻のくゆ
ハ系光ゆくゆ下を魚の后と只のゆ
るもおのくくゆくとくゆ

一　甚古や新年ゆるを米五升

此句前句に俗名やとくしめるうぶやの
ゆくいをしきりとやさのり
一　風呂やとよろこぶ義し　道の敵
古歌を此句にうつす文を題をえんてある
ゆく風呂をもてひろ風呂やと
もつとも殺しかたし白色と云ものも
色くるやくなれともをとをえ丸さ
えすくしとと

一　六月や鳴るををくはしし山
此句花柿をそのかくやと貴花
山と云句他骨折さるやとなろう
川風やくすぼ柳をくをくをみすく
一　此句涼しのをくおし心やくをさ
アをのくをく

一　をを行脚中に柳をやきし竹
前句ひくをの帰つけさる市を
きに竹をし帰入る宵ををこ
ひくを家ある味ををしんとをろ
しくしくを見をあめしとをろく
一　かく雑もをやの渡も宵の年



此句前句心の帰を云とをんと
月物ををはをとを景打ゆひ
句ととんとはをを

一　地ををとをけはををろしきは竹
此句前句をつくをを良うく旅をの跡
風ふとを八黄角を地をを先はを
とをく

一　木のもとハけも鮫も作くをれ
此句の貧前句花をんの白かををを
えて作ををををとを

一　修繕の屋根をを解句の丈のを
此句八丈の老代紫屋をを古紙ををの
をを悦ひ作をとををされり

一　七夕や秋をきをむをはめれ歌
古歌を此句歌のをめけ紙の歌ば二
子心ををめてわく作ををくを
ねのほをけめの歌を八宝めをひを

一　丈をを作者をを石九上
作者を傾つく投　石の上
古歌を此句作文の大佛の白人を

一　ほけほけのや白魚ちろちろ一寸
此句そも〳〵発句とすみすとは
より発句のまことなり

一　まくしや様とききをとる様の面
は紫旦那田人間しまを正くおの
ゐり者く養人と成悔ゝを拾さ
ゝゝ

一　文考ゝ文福七の文箱桃花坊ゝ文
す財人ゝゝゝのくゝ物作ゝ作ゝゝ
文考ゝ葉仙ゝハあゝゝの相ゝ稱
ゝ作ゝくゝ作ゝんたゝく

梅ゝれのゝとひのもゝ山桜ゝ
なゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

文考ゝ梅ゝ文の枝ハ作ゝゝゝ人の鏡の猫
水芭蕉の鏡の猫ハ珍ゝゝゝ人ゝゝを
一花の心と作ゝ作ゝんとゝれゝ
作ゝゝゝとゝされゝゝゝ作ゝ

末部辛ゝ移ひく



ひやゝと顔をゝゝて唇ぬゝ
菊此句ハゝゝゝの作ゝとゝされゝ
をゝ考ゝゝゝも見ゝ其詩者ゝゝゝ
彩ゝゝく必投帳の弱をゝゝゝ
かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝを
おゝひおゝゝ人ゝゝんとゝ作れハ
此詩ハ文考ゝ作ゝ稱れ作ゝと呼ひ
ゝくゝ

一　秋風の吹くゝゝゝゝゝゝの踊
此句いゝの考ゝをおゝゝとゝ句ゝ
ゝゝゝゝ吹くゝゝゝゝゝゝゝゝ
句ゝハ好ゝゝ考ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝひゝ

一　ゝゝゝゝ二度つゝゝゝゝゝゝ
古芽ゝ此句ゝゝのゝ通ゝゝ
ゝゝ作ゝゝ作ゝゝ者作ゝ
此句ゝ此ハゝく思ひ作ゝゝ作れハ
ゝゝゝゝ作ゝ作ゝゝ

一　梅雨

此秋ハ作ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

一　名月や[illegible]美しく[illegible]
[illegible]
[illegible]
名月や[illegible]八七[illegible]
[illegible]
定[illegible]

一　墨の[illegible]の翁[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 [illegible]

古今集に曰く八広の池とけしめ侍る歟

おとにのみ聞くとしれる侍るう

一 人待やひさ侍る秋のくれ

ひさやゆく人形[illegible]

古今集に曰く人もとと人まもひもし

侍る人形[illegible]

[illegible]

一 初の末を[illegible]

古今集に曰く[illegible]

れに侍るやと一さまに侍るよう

思ひ侍るまことに侍れはいとう

思ふ所侍りて侍ゆとけしめさる

とそ侍るし

一 [illegible]

古今集に曰く八重[illegible]

[illegible]

合とは[illegible]

いさ[illegible]



[illegible]

一 門人の[illegible]

歌とは[illegible]

[illegible]

古今集に門人の[illegible]

[illegible]

[illegible]

とに[illegible]

[illegible]

一 古今集に曰く[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一七夕を回りや[illegible]

傘さしてとかの句は[illegible]

八神を[illegible]

[illegible]

一回く討[illegible]

[illegible]

一回[illegible]

句は[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

万化すと又ともせんすることなし候
と思ひ物〜常年式三ヶ樽ゝ
ゝ

一或付届の物を能はさるもの
のことも世上二三能する人今ハ
雪十二能ハ人〜作ること物も
世間やゝ格こと〜能作ること
ゝ人ゝに常〜ん者ハ世間
ほも動〜作ること〜やみ作ること

一届日付との上第ハ響響候樽
樽量ゝ〜取なくゝ樽ゝ起る
而し心通をきれハ乃ひ〜〜
やゝ〜

一相の味たうく用さゆゝ
門志めて面〜〜ゝ梅ゝ而ゝ
届日界候ハ門志先て此一面〜
後をすゝこゝ試ゝ方ゝ門人ゝ
思ゝれ活〜の〜ひゝゝ物〜
活茶生と三面ゝれゝ〜〜お
ゝ〜〜作〜作ゝ



一市人ゝいてゝれ〜ん書ゝ家
海の中ゝ〜〜〜

俗しるし人は山里は万葉おそ〳〵物
花と云歌と山里は万葉集〳〵と
云て物しる人は物ハ花と云心のと
くにはりく物ゝ心歌白と山里を
万葉集と云とそうハ歌白の後
ゆゝ歌も歌白ハ後撰集のと
ゆへ〳〵と云ゝ武蔵出ゝ
作ゝ歌の中ようもゝとゝすく
ゆゝ物そも大抵ゝ〳〵
一古歌云歌白歌白の物語の物
云のおゝ白のゆゝ作物あゝ
ゆゝとゝ〳〵云ハ作〳〵作
をゝ人ゆへ〳〵と云ゝ又白をを
今すゝ云白の古ゝ易ゝ物作ゝと
ゆゝ時ゝ作ゝ〳〵人ゝ云作ゝ
何〳〵
一歌白人の古ゝ作ゝ歌白ゝ作り
ゝ作ゝ題向歌の云合と作歌ゝ
ゝを考へ〳〵白作〳〵ハ物ゝ〳〵
歌白ゝ〳〵ハ物ゝ〳〵ハ



ゝ作ゝ云ゝ〳〵ゝ作ゝ〳〵ゝ
一古歌云歌の物語の物語ゝ〳〵ゝ歌
物ゝ白ゝ作ゝ〳〵ハ物ゝ
歌白ゝ歌白ゝ歌白ゝ歌白
一歌白ゝ歌白ゝ歌白ゝ歌白ゝ
ゝ歌ゝ〳〵ゝ歌ゝ〳〵ゝ歌ゝ
歌ゝ〳〵ゝ歌ゝ〳〵ゝ歌ゝ
一古歌云歌白歌白ゝ歌白ゝ歌白
ゝ歌ゝ〳〵ゝ歌ゝ〳〵ゝ歌ゝ
ゝ歌ゝ〳〵ゝ歌ゝ〳〵ゝ歌ゝ
一歌白ゝ歌白ゝ歌白ゝ歌白ゝ
ゝ歌ゝ〳〵ゝ歌ゝ〳〵ゝ歌

一 前四下の句上の句ともに二字三字
のつゞけ詞又は二字三字甚ぬ
り歌の句詞骨格へよせ
一 前四おなじ事の句詞を用ひ
人の名れとうたふ
一 前四素秋のゆきぬ方をしたし
すゝまるひれ時よりゝ
一 前四他所八歌なしさるを
つゝよく通るを用ひ歌人の他
所八ものゝ通をひ所をかゝ人
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ひ所と用ひ
一 前四歌人の句八歌をいゝんとす
る後く句数を用ひ所名歌
をの〳〵用ひ又歌人の句八まを



用ひ所をゝんとすゝ
の上をゝしもゝ之句の作ゝす詞
ゝ他八所ゝ人ゝ所ゝ
一 前四結句ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一 古歌ゝ前四歌句八門人ゝ他
用ひ分合八老作の者とゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一 前四句の歌ゝ
て人ゝの句をゝ
れすゝすゝ
ゝのゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一 前四歌句ゝゝ
用ひやゝゝ

出かとゝ門人の意を以二三句はと
つゝ出そへくさくさの事仰一ぢつゝ
見も伊賀の門人をおもとして意を
以出句一ぢを爰に中こたん又
小文とゝろうやすくよ浮号八爰有こ
て能又作こ有刀とゝ門人該こ所の
所ゝとゝ有ゝ小集のゝとおもひと
句さゝこ爰号こ有ゝろゝき勢れ
と爰ゝこ有爰へゝ拙号八始さま
ゝ所のこ爰こ有ゝひろへゝ
と教のひゝく

一蕉曰牡丹こ芍薬を作こ中ゝ
中ゝ見八位の甘こ有て爰会
こ八句ゝ作こ有ゝ作ゝ
八作ゝ野こ有ゝ有ゝ
こ作教句ゝ門人作て中ゝ
中ゝ

一蕉曰おゝ作こ句八集こ出す時有
ゝ爰ゝ中ゝ作ゝ八ゝくをこゝ
作猿このこゝ有ゝ爰ゝの茶の句

猿蓑こ爰ゝ爰の作に句こゝ
作ゝとゝ

一古芳云蕉曰句の作ゝいろゝ
れゝ時こ句を作て貧の教こ
のとゝゝ人こ句を作ゝ句を
せこをくゝ作ゝ作ゝくもゝ

一蕉曰猿こ爰こ服ゝ云を云猿こ云
こけくゝ有ゝ爰こ句を作く
ゝゝゝとゝ有八ゝ紙のと
爰有ゝとゝ句を云句作れは
蕉曰これ一発新こ作ゝ
作物ハこゝゝくゝ作ゝ
こゝ有ゝゝゝとゝ

一古芳云蕉曰松ゝ云味線の新器
ひく安上ゝつゝひ色こゝ試ゝ
作ゝ人ゝとゝいろゝ句作ゝ
を作ゝ礼ゝ時もゝこゝ
を爰ものゝ勉ゝ爰ゝ新のとま
ゝもゝ人ゝ有ゝ

一古芳云安二云こゝ絶世こゝ

扨て弟子二三名ゟ翁ゟ茶を出す再三の後人
翁これをうけす再三の後人
ゟ翁一て曰これ茶にあらすと曰これ茶にあらす乳
とも茶おすゝめ茶にあらすこれ乳
て云んと云人皆彼の問ひ二三や
り句と称しれ一出やこれ何んと
あり廿人程ゟ出人一ゟ答
翁の門ゟ入て
一翁曰句ハ天下の人ゟ多ハ
やす一人二人ゟ多くゟ
人のゟ多ゟすゟ
ゟゟんとたゟ
ゟゟひゟ
一古芳ゟ翁曰俳諧ハ思ふ
俳諧の句出ゟ
ハ知心の句を
ふゟ
句のゟ
をんゟ
て信ゟ



と称ゟ
ひゟ
ゟ
一古芳ゟ翁曰其句ハ同作ゟ
一我の無ゟ句を
ゟ
ゟ句ハ
ゟ
句を
ゟ
一古芳ゟ
ゟ
一古芳ゟ
ゟ
ハ二三日後人
一古芳ゟ
ゟ
ゟ

十二月廿日了と

一古歌云弱葉の冬枯なる白ゆふ
よりをを云伝れハ箱日本ゆふ白ハ
物あのゆふ云さもかくとゆふ云さと
ゆふ云ハ白と云ゆふ云ハ白ゆふ
しとと

一古歌云箱白ゆふ云れり示されし時後年
歌ふものいはさるけりとも感心の
道と見箱の号ゆふ白ゆふ云ふと云れ云
を伝ふ云ふ云を勉されいはるとも
ゆふ云ふ云箱白ゆふ云を伝ふ云ふ云
しく私云を伝ふ云ふ云

一此ゆふ云箱白ゆふ云ハ一歌の名ゆふ白ゆふ
ゆふ云ふ箱白ゆふ云ハ箱の名ゆふ白ゆふ
しとゆふ云ふ箱白ゆふ云ハ箱の名ゆふ白ゆふ
諸の伝秘と云ハいはれゆふ云
と云ふ云ふ云の心云ふ云ふ云ふ
伝念ゆふ伝秘の名なく云
此も云ふ云の云ふ云ふ云ふ云ふ
伝秘ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ





一古歌云箱の白ゆふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ心ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ
白出ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ

一古歌云箱の白ゆふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ

一箱白ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ

一箱の秘乗と云ふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ
ゆふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ

[illegible]

一菊曰牽牛花ハ蔓ものにて竹木にまつわりて花を開く

一古書云菊曰[illegible]

[illegible]

一菊曰俗世の言ハ俗世を厚ずるの人

[illegible]

[illegible]



一菊曰[illegible]の花の形ハ[illegible]

[illegible]

一菊曰撰集抄に[illegible]

[illegible]

一菊曰[illegible]の花ハ[illegible]

[illegible]

一古書云菊曰[illegible]

[illegible]

一ある人曰、世間会の事、[illegible]
若しく序[illegible]伝れハ心もつる事
ら[illegible]流社の[illegible]
心中[illegible]
一ある[illegible]
如[illegible]
[illegible]
[illegible]

情をさとれば人間はたゞ
夜ものゝ夢のごとし

一古芳云弱四人見聚こゝろ多
し今年秋二月ばかりこゝろ
ばかりの人の方まもりのもし光
ばかりの心の傳もなく又仏


一古芳云一とをゝ六和の法隆寺よ
ゝの冠尺高し結とて法の用
帳又起れしこゝ彩る古代の和
を仏ゝ方ゝ拙ゝ心の法
とゝひゝ人ゝ

一真祥傳法の日を弟子
二弱四法の日八宿主宗平と
云ものの口をこゝ傳ゆすれのを
て人もゝを考れこゝかれ蒙
云法八法者の法眼特ゝてゝ
しゝとゝ

一弱四定家卿五首の秘訣を
こゝ人を入ゝと云説ゝゝ秘と



云八口傳ゝ法ゝ者を
ゝを云ゝ撰者の名ゝ
すくれゝる者ゝ
ゝゝ心ゝ
者ゝ
ゝ

一弱四仏智ゝ弟の法を
云ゝ
ゝ

一弱四ゝ川ゝ
ゝ人ゝ
ゝ
ゝ

鄉の云伝そと武野をつめて
ゐるうしはいやしさくうゐくゑ
此あのとにいくんとゐひてゐく
ゐくうとゐのくしとゐ前も
武野をつめるをいやしとゐ
里面をまし

一古今の序に歌人の孫のゐを
をかのく歌しゐるゐうに要
之の出るゐをゐ前田歌しる
ゐ伝しゐをゐ人ゐの歌貫の巻を
見歌しゐ賞しゐるゐく衣撰に
沙の院のをのゐと我花ゐの歌
の赤人ハゐうゐうとゐるゐうゐ
いくゐひも味へしとゐ

一味ゐをのゐ前田春ゐ老人に
対面の対清峯に去れ夕くれ
梢ゐくゐゐく雪ゐとおもひ
て句をすへしとゐ貞徳の心
いうゐと弟ゐ老人云貞徳
も古今伝授の人とハゐくゐん



今ゐ句をせゐるとゐうとゐ
ゐしゐ

一前田ゐの時入逆の峰入とゐゐ文
ゐうむゐ紀ゐ流ゐう時入
て色を水と云てハゐ時ゐう
入ゐ色を逆とゐ今の峰入逆
ゐうも流ゐものゐ水逆とゐ
文ゐゐ歳流しと云ひな

一古芳云良ゐるまされハ世垂ゐ
ゐりゐくかゐゐるゐうゐ人ゐ
流ゐうゐすゐれゐくたと云ハ雑
ゐとゐゐゐり又ゐゐゐをもゐ
めゐ雲ゐる男狼ゐつゐ良
ゐるゐとの秋やゐひぬゐう
んゐれをゐ定ゐの云ゐゐ
ゐるまのゐ形ゐと前田花
ゐれとも只まのゐまのゐつく
ゐまをゐゐと初ゐゐ
一つゐすゐれと云ハ四園のす
まゐ流ゐの内のすゐんとゐ

とく一ぢひとみてて繁やさし
ぢて信てすくれのゑこ多くく
山形ものもよ多くこ弱曰式教の
るとともこれるとるくとそ
一弱曰大くこの家こを仏の多く
めくん故こおくハ家くこくハを
世家ハ明ぢ沢ぢまくこる家多り
おくしくくしとく
一浪化ぢ仏頂浮海と素語の
何ぢく弱曰を仏を形んとす
るものをしく市中の陰性ぢ飽
く遊若ぢかくれん廿ぢしめよ
飽ものハ又廿孫字寞ぢ飽ん
きんハ今日の花非ぢ交ぢかの
ら手見飛ぢつのをもぢしく
自立ぢををんとハ式紙
社ぢひて名利を厭ん
ぢハをのすとし
一浪化ぢ弱或時廿角を載く
曰己ぢ花手淆ぢくくぢ人の



綾を云くくぢ
ものくく原さ秋の紙
式白をえて廿角一生他の芝
非をいぢとく
一弱曰概社ぢのちはよくく
喝るものぢ
ぢ逆しくの人情ぢ連逆
して見非変化自立ぢハ
一白の他ぢくくぢ家字者と
言ぢし
一見ぢくる草ぢ曰ハ新原
弱式白をんてめも紙形の親
くんくとぢんくくぢ
廿角ぢ生絵人共白の曲ぢ
を弱くさひ不念形さ
に乃を捨て字繁の字生
ぢ家されハり来らのし
ぢとゆくしくぢ
一　十字ぢも小能ぢ生め秋風祭
浪化ぢ弱式白をゆく浪ぢ紙

仙の骨隨ハえてうと云て先ハ
我身よりほとゝぎすの仙ざ仙信のさ
ひしきをわすれのくりて本心猶
此日おそうかうと存しかひしと
一浪化云弱者よ杜の陵うゆの筏
木丁こ山更典あうとと云一句を
移しく仙社ま此感をうあ人
と言ひ又老翁の歌
けうまつる燒中のきゝすゝ蛸き
おとろくこゝうの浪つゝしう春
と仏ゝし家を以仏を見ま
あゝくとも云う
一浪化云弱むう紀海の山中
を越ゆみ時五十ちうの男
それう婦とあゝしさの修よ
義を下しく坂中よ体しひ
所ゝう女ま男の苦をとゝ
ひをゝこハ女を勞てえさま
弱をくようて四方ゝ修ゝう
の人すや古侯ようとえりれ



ハ男のゆゝる幾八向の山のかひより
日毎よ走海藻をもひて嫌ま
雪形ゝ女月の縁を求め月雪
れハ涙ゝ辞歌仏恩を祝ふ和
他の金ま物く山中よ法ゝ
時ま思をゆよゝゝやを又ゝ氏
ゝのゝよと弱ま和のゝ中ゝと
ゆゝう弱時と祭よめて水ひ門
人ま弱修ゝれゝゝさハ中女ゝ
ゝや山やゝゝゝも婦ゝ修ゝハ
おそゝゝく修嫌のゆゝゝ
修ゝゝゝハにをゝゝう
中ゝ勝のゝゝ中ゝのゝ
和ゝよ妹背ハ修ゝと
幾ゝゝゝゝん
一浪化云弱一とを又月ゝう
陸奥八郷を修ゝく越修ゝ
中ゝひゝゝの直仏法と中ゝん
云ゝゝの修ゝ寺化ゝとゝて氏
寺よ和青の人の修者ゝう

[illegible]





[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆゑに彼門の人あるひて爾
くと称すすして者吟ハ沙の沙
千子の徒者を出として爾と人
て云ふハ門人のそこかゝよ
よりしに者くに葉をあさんに爾
と云へりと云ふ事者ハ
れりしと彼説の葉において爾
とあんに天下の人皆爾さ
と成ふ云ふ一特見られをは
しめて門の人はなと形し
ゆへと云ふ爾に其角ゝ葉に
発てもを出しくとを成を
よりゝ人稚みの撰葉しに
ゝ射白れりゝ爾と云沙田法
門下れ集成へくに葉を爾
とあるなるとかくに一ゝ葉回
沙の通退ゝおいくハ彩ゝ青子
そ教を動てハ爾と出さんと
若しゝし沙曰されハ門人なん
は月られ南ゝ爾めんゝ爾



かゝるゝゆゑに人一芭を芽るゝ
めの人よ沙法をさんゝハ卯て沙ゝれ
ゝ人一人孔者人爾のをときゝ
え伝ゝるゝ沙の葉ゝゝ其名
出ゝるかゝとて爾と出と
卯ゝれと仆紅ゝのゝれゝ伝て
猿ゝの葉を仆ゝて芭
蕉と出伝ゝし
一蕉人曰云蕉門の脇句十七番の
教ゆゝとし一とゝ伝迹を論
ゝ来て人ゝを伝授する宗て
ゆゝゆをゆのゝんゝ来者
云十七件とゆん四件とゆ
ん出ゝる文を伝ゝるゝ
ハ彩ゝ伝ゝるを伝授ゝゆゝ
ゆへゝゝに仆を邪水爾ゝ
伝て云を来大法の迹元名
渡座のまゝ元ゝゝく伝を伝る
ゝ彩ゝゝゆゝも伝ゝるや沙曰を
まゝに迹者ゝ見れおゝとゝ

先年加賀の門人何うら侍よ
り書を遣はされ八紙しく
教を受けとも吐とく教へ
付句の数を出し示し侍る
乃ち是を写むもの有て
付句の大数を云ひ侍んとも
ものの数に成て和心のまゝ
ふ〳〵と思ひとりて侍るを
書をやむさくめて反故に
を捨ひろく世を云ひ人と
大更ひ〳〵ものうり出すみ氏文
をとゝのくすみ八大法すそのす
ものう前通久しくかりて侍れ
八そ文をもて今月をしに
しそみてうに世境の人に侍
みものうし此付句八子変万
化して為を以云ものに侍し
一翁曰撰集に撰者の句はさ
入るものむうゝ載葉の時
再勅撰有て俊成々の秀か



侍をゝれさるを撰者の時俊成
撰者はゆくゝともゆゝすゝよ
るゆとゝ
一　ほれたるふとまゝ悪のみく五清島
氏句連歌の大趣しよひうれさ
見ともも大如しよ侍し氏文
まて切ゝうう翁侍云手和
侍の時ゝムれゝ
一侍云三四句月云句めよゝう
と書くにおりう近手は句め
云句の八題のふまやとん点数
俳諧流きゝふう紙句中
八なうゝうゝ翁成れ白
点のふよ四句めを句めを秀
逸しく所をつふさをてゝ
よしと常ゝ常ゝ宗ゝ
ゝもゝくゝ
一翁曰志翁ゝ俳諧八区云侍よ
侍りぬゝよてゝあゝさゝ人一生
俳諧ゝゝ氏ゝ云ゝ大切

あるものうるく又位高きもの
あるを俳諧なるべしとて人のうハかの
の藝より是一とする人まく俳諧
ナ入ともヤされき
一俗人云沙田蕉白まるとすよ
末のおくりことをるものをあ
るを大切なるものやうに
為つしをねのみ為ものよう
とつるくのひ作るよ多
信徒川の名代しくしみ
と称くそあるとくさまよう義
時源川の花一流ろく時りさん
ろく
一作者云一とを芭蕉発して三
吟俳諧ろく時
宗匠の張ものろくや作大招婆
をさく俳るお宝の源為
は白芭蕉を者とする白し
源の一字俳諧のよみくく
て是人のを掛とつるさんく



ものくぬ人を宗匠とて
蕉門の不の異議をしく此宗
三流業よ行くれやあ別業
しゃされるも即す得ろ
角のよをるれとのつも此系
様少為ひを入蕉ひとりさ
を引れハ沙田よ多をとつ
ものの不海くいくや技もい
やくんくに此を宗これ芭ろ
行く三分のうちしとりされ
ろ代ハをるよう宵うくをを
逸まりをくくをやすと
流業かさねてやされるは
沙を真よそれよりよ変三よ
て作るなりとて
自も宗匠うくを逸不者
と白作るとされそ
人情平語の芭蕉を以俳諧の
歌恰合るきう合を知るも
のとあくく後代の人びと白我

よくゆんーーー

支考ら正義の性は何しかるに
國郡の風情より何ぞ
大和國の風俗を止めるゆへ
おくりやとされし　とうや又
みのの考に吹うきれし　雪舟ぐ
とうえんく書撰さるを　世人の
うける風情あるを
義ともなりて杖めるかし　武
とつくる風雅の異ひ正流うに
とうはきうあつおよりされし
月くに武蔵はてるのはとうて
とを分三をもの考うあ行くう
よう羽田くにふるのふ蛙ひて
一旬のさけ命うあるしたとく
るかのとは何くさえ孫うう

一　考に桃やもも落すあの色　桃偏
支考ら俳花は火のとくあるれと
考に桃はあるうよをうる人し
久しく新水の勞をたすけて
けるのを文流うしたと羽も起

上りやされしく

一　かく猫をん味方を系れをもし　出郭
支考ら云る上より繋を様くて様すく人
もての要は何さ行りしを味考系
のかく霜をんとのくけを　ひさ明くの
風俗るしはや羽も何うしほと
ゆるされ方十八年つひやされ
しを保く武具の種よをきめけ
さしかの考ら名をそしめけんを
のゆうしいく秋のを向ら八年う
す

一　羽迂化の年性藝文考を付ひ移
なくうく年良ら新す山みち三百
ようは毋年第て法司と年文を
るるよ山の猫すてく密持の本
の烟くされは人の歌

山ぐれみんの色代考ら生て
とし多ひ一旬は何しく四ちこう
さつくと文考ら中られは何れ
系猫をうをうるまと羽もうろ

[illegible]

一　其角云、[illegible]

一　其角云、[illegible]

一　其角云、[illegible]

一　其角云、[illegible]

常の紙屑の様ハ紙屑をこそ
よそへんものを
うゐる共尺くものゆへと紙屑
なるしるとゝ
一世角さし合のるの沙回あや
ひもの御傘をもひまを用ふ
屋ゝとゝ世角宗合のるの八沙
ゝをさ宗作ゝハ志ひてゝ
味すくよへ夫沙しこれ紙屑
を半量なるしあんうのこさ
沙ひくゝの上ものゝ
ハ紙屑より上ものゝ
しと言ひま宗合のるの
ひもとりて紙屑
んハかの張弦おふ
てのゝなゝひけんけ沙ゝと
ゝ沙そゝくふ
一世本ゝ世角付句ともにゝん
ゝん沙く第一人つゝ人ゝ沙ま
短向ハさも沙ゝんなれと一句の



上ゝくめゝしをそゝふもけのゝさ
ゝとゝ人を解ふハ紙屑とゝ我を
和歌ゝう短句を沙ゝるまれ
されハ沙く第一て句面ゝ短向
の沙さゝゝ心つゝぬ有ゝ毛ゝ熟
ゝ第ゝ上ゝ十ゝこれ沙ゝ紙屑の
沙の紙ハ沙ゝう沙ゝ沙ゝ入沙
きゝう沙ゝ沙ゝ沙ゝくゝゝ沙
の表ゝれゝくゝ
一世角付合の句ゝ和歌の姿
をさゝめてゝ和をゝゝ時を
ゝくハ百句ゝ百句人を反付
ゝも反合の沙沙をのうれゝ
も世一世句ゝ連絡ゝていと
無沙ゝんゝされゝ有破意を
反ゝゝすゝゝ沙れ和心の沙り
ハ世ゝ有を以功をつゝて世数
ゝ付ゝハ一世の序破意おの
うゝさゝゝゝゝゝ沙も
紙屑をゝゝ上ゝくゝゝ

[illegible]

或云 関東の垂れる武士藏
の一事大きこれと似たる事
[illegible]
[illegible]
[illegible]

友と為て可なるべく佞を友とする
なかれ　佞とは口ばかりの事をいふ
なり　損益の友とは人の善を見て
すすめんを益の友とし人の悪を
見ていさめんを損の友とす　直
は人の性質なり　諒は誠なり　多
聞は人の見聞の広く博きなり
ものしりなり　ものしりは人の
ものをよく聞きて覚えをるなり
又多聞は広く博きなり　直の中に
諒と多聞とあるなり　直は人の
性質なり　諒は誠なり　多聞は

のそこう遊ひ麈尾を拭て二三の
のゝ上ゝ立居をもて二三の家ゝ
家道の儒名をゆるすべかゝ
玉藻治君の德をくゝられて侍
受をゆるすゆをゆるゝ者ゝハ
美人礼法例ゝそ忘きゝひ
すつゆをゆるすハ美人を慶めよ
するものゝゝく趙高ゝ弟弘ゝて
てゝすゝる礼冠をやぬゝれ礼ゝ
礼法をゝをゝきゝ人礼ゝ礼をの
ゝを祭ゝもゝはゝし礼をあゝゝ
ものハ美人ゝゝゝとゝゝゝゝ
呼吸吉今の雪俗ゝゝゝとゝ
新鳥ゝゝゝ美角大ゝ愧て青
汗して退ゝゝゝとゝゝゝ
礼と福と絡れやすく高遠と
我ゝと彷彿ゝゝ法ゝ考く
礼をゝゝゝゝゝく美ハ言上
なゝゝく美止ハ礼をゝゝ
尽ゝ弱の御ゝゝ御ゝ



山法空の対の残陽空法ゝ
法りて掛ゝ法仏山の風光ゝ
ゝゝりゝゝれゝゝゝゝ法ゝ
ゝゝ弱ハ仏法法ゝ闘法のゝ
ゝゝれハ仏ゝゝゝゝ弱れゝ掛
法ゝん弱ゝゝゝ対のゝ弱ゝて
法ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝハゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝれ法ゝゝれ法ハゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

しとも

一 冊帙之異伝集撰の対
沙汰く通もしくはしく連歌さと
るて四句はうく頃て又作成と
云句ゆう四句の四句をゆうゆん
と云けるハ句曰もしく雑する人
ゆゆハ不吟乗なりとゆひてる
なんうしとて

一 八新や波芦の段代新しく
此句句曰これハかしくの五文字を
のけくかのもやとしてもそれ
ようう通用やとしても五月北
句ようるとし歌のこうすもと
八新ゆゆくそれとそれあ年く
ようを定の句をうまする一とて
八新や上芦下芦をえて意
七夕やうそハおしもおうしうん
右の句なれハ治定の八新ありう
ゆうそうれでれなるとてや云ハ
してゆしかひくさ年ようそ

しハ朝の五文字をたしかに屋とし
一 句曰句を作るとそハ心の
屋をしるしゆ心の作ハよし酒代
作ようむ(うしとて)
一 句曰句ハ七八分ようひつあてけや
きし五六分の句ハ作りすてる
年ゆうしとて
一 句曰句ハ高新屋をたてること
とし先本の拍盤を組る縦目をん
をくゆくてて大ゆうしくん作
生とも作ゆくを屋をの天文系
石切山屋ハゆうくしくとはう
うて作雑新しとう
一 句曰人の事一四をを改さんと
て心のかをひゆかさのをりを
ハやしたとて四月新る文云
の新作ようう言く少油かさる
されハ言を残帳を変ゆう
くうも人の変ゆんうを
んと云れゆくきても人をのハ

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]



[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一菊四位の宗八なる人秋のとゆくもすれ人人よりまゐる人おのれ〳〵これ心みやゐ〳〵おもしろし四時の景物八月を賞して月ハ月春ハ春の花をえらびさきさるものゝ事ハ花をえらびつるハ月ハ念のゝとしとて

一秋波ゐんゐ飛鳥をゆるすこと只ゝ爲をのゝくさ〳〵に物をいとゝんとて

一菊四郎むゝ〳〵もてやさ〳〵ハ飛鳥の狂したゝくハ

かゝゝ〳〵山ゝゆゝ〳〵めゝやゝとゝつゝよ

れ物のゆゝやる風うきゝとけれゆゝとゐたゝひれゆゝとけゝ

雅ゐのゝゐひゐゆゝ風も花も咲ひゐゆゝして静なゝこと作〳〵ハ

夫ゝう安ゝ物ゝる宗近ゆゝさ

ゆゝく

拾小本ゝ御祭ゝ〳〵ゝ



地のすゝやゝに死れぬゝゆゝの仏

と者ゝゝをもてゆゝつゝひゝゝはゝ

ゆゝ〳〵を安ゝ黄鶯ゝ人も咲ひ

ゝゝ黄ゝの家ゝゝゝと流ゝ

ゆゝゝかゝゝゆゝ家ゝ大内

のゝ藤ゝ菩提と藤ひゝひ

丈夫ゝゝ〳〵ゝ法住寺相見

とゆゝ人ゝ氏者の酒ゝゆゝ

付く情をゝゝひおゝゝとゆゝ

八逢ゝゝひゝゝゝ〳〵後ゝも六人

の庭をゆゝゝと彩ゝと飛鳥の

ゝゝ昔の飛鳥ゝゝゝと能楽の

名のゝ有て女ゆゝ謡ゝ代ゝ

行ゝゝゝゝゝゝとゝゝゝゝゝゝ

をゝ古人ゝとゝゝゝゝゝゝ

一菊四郎を夢ゝゝ時ゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝ

一菊四郎合の白八逆ゝとおゝふ

〳〵ゝゝゝゝ人ゝ法ゝ〳〵ゝれ

とゝ人のひ取あつめるものゝ

一後二條師忠の詠歌ともゝ

一支考云定家卿の系別に曰和歌

は姿の大切なるゝたとへ人倫を殺

るゝも姿を殺るゝ

一とを伊賀のゝ上野ゝ

芋幹の根芹しゝろ秋の風

とゝ句をゝ面の用歌とゝ

作ゝゝゝ作の次日ゝ句の宜

ひゝゝゝ句の句、芋の葉ゝ

〔百科〕と幹と幹とのゝ

しゝ我と知時ゝ

一支考云時勢の変移今ゝ

ひて流変の移ゝ

門のゝれゝゝゝ

しゝ句ハ俗の望ひゝ家

の飛仙ハ京のゝ

きゝの汁代ゝ

しゝ大根の辛みのすゝや

ゝる凡山葵の辛ゝの



る句ゝ人俗の俗非和ゝん俗

ゝゝ文の人ゝゝ

俗ひ変ゝ到ゝ

飛仙ハゝゝ

けゝめて歌稽古の

て差宮ゝ

一句ゝとを作賀の西

もゝて後世みの俳集ゝ

に民謡の人ゝゝ

ゝゝゝ丈角も三四

者ゝく秋風辞をたち入ゝ

句ゝ

ゝゝゝゝゝゝ

ゝとゝを系も人も

てゝゝゝゝ

ゝをゝゝゝ

ら晋ゝゝゝ

けゝ玉振金ゝ

めて天下の人を

ゝゝゝ天ゝの変化を

ら法二位をかさねハ事法をうし
ゐひ三位を二ハ位ハ書く
ニ紙ハ月ををうしゐ山ゝとも
一文考云ゐ山ゝとこれて三位の
新撰と云ふて
角兵ゐ殿式毋くゐいもつ〜
とつゝ系ゐ山ゝ人〻夢〜入こる
を系ゝ白孫よいつゝやを
のち山をうてゝかゝうゝの
施疫つゝ左沸乐のごゝ
を拾られゝやゝ弱ハ位の
位ひゐくゝ倫理の白識ハ
山の中ゝ乃ゝゝそる貴大文
をこゝしる路ゝハ文をすむ
教誡の二用ゝ手事ゝそれを
彩ゝいゝゝ物ゝのゝらを拾ゐし
位赤ゝ物ゝのゝらを拾ゐし
とゝ白をゝ手すゝゝすゝめ
系を知ゝ位員を縛ひて後位
八初茶白の人をゝ〜えてゝ



ゐ中を出よいてきのゝやゝゝ歌
八中ゝとゐゝくゝゐらをれ繕拝猫
みのゝ二集ゝ中ゝゆゝ弱の
射金をゝ入ゝゝ十ゝ及八ゝさ
ゐゝ位ゝとゐゝの日ゝゐ中をれ
箱曰系ゝ位ゝ逃ゝ二
とゝをゝ三ゝをゐゝん的くれ
付金をゐのゝゐゝゝそれら社集
をゐゝをゝゝおゝゝそれゝそれを隨
教伯爲ゝとゐひて孫の財ゝ
ね八決ゝて為ゝゝゝとれを
了
一文考云阿ゝ付弱の紡ゝゝに
位位ゝ白氏文集を見て常
常ゝゝ為ゝ為藝ゝいゝゝ位ゝ系
のおゝゝろゝれハ
美をや世ゝ歌ゝ花を明
さゐゝれゝ鋼蓋牧士業社烟
沈位二白を位ゝ位ゝしゝ常ゝ
筍藪ゝいひて老者の位情

もいとうしく絶て作しん妻ハ離縁
をしらぬ人ハ心のそこひをそんしう
ゆゑ一ハ[illegible]ハ是の一をを今く
家を絶さる事ハ[illegible]
一或時客こうれのつれしこ三子ハ
つとひろこ[illegible]いて一巻をそやとし
ハ家て絶入抑絶ハつくそ
といふ句を知られしにおのし表
章の新作しに為者むり
うして彩の[illegible]ハ是時の
表を為く一句の主人公を
ハ[illegible]とも[illegible]
こハ兵橘樓の春香こ拍ゝく
更こ一句の[illegible]を考へさる
ゆゑ[illegible]句の[illegible]ハ今く[illegible]
の夢歌とハ[illegible]ハ[illegible]
紙付[illegible]
とハいふ[illegible]
[illegible]

一 [illegible]





[illegible]
一文考[illegible]
[illegible]
[illegible]

物よりとうわ[illegible]
て神て宗[illegible]
も門人何某う句集[illegible]
ク[illegible]
道[illegible]
おやくくと[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

附録

一性慈[illegible]
序三一集す[illegible]
数口[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

因信そ急とりあ仕り者又
京都町奉行所へ急と申ス者
口入の者ハ急て
十月二日歌子内　怪談
十五夜
今し大津と京とを往来する
乞食くつわ者ハこの時節て未
若き者て沢山に徒歩ハ
仕方て当地御ハ者し幸
藤屋と申す者て仕事ハ
大勢快報者て中し云り
千寿丸角々の役者ハ
者のみ

三日廿七行個屋敷として
もう歌子ハ
の状二百の行事
中立役人ハ
しまより舟ニ乗ハ
兵ハ夫の討ありしと
高麗ハ



しさ物よせ
も宮ハさ
みー人ハ
異ひ
ハ
ハ
ハ
しひ
日のおもひ
行る
ハ
ハ
ハ

消息を書てこれを
本書に書きます
一支考も紀氏云同じ所の歌子の
財おひつゝいて本所なる二ヵ
如の者人の消息を歌にをしえ
大清を五の紙に三一巻毎に
ゆりて紙を綴り所毎に名付
今歌もそこくすれ直て
家能をこうひの稿を勝す
主方遊廓を問今す四
新本所にさしたり新鮮
人参半両を浦町伏見屋
原河く色番十五貫とる天
より之を求ようを給すそ流
深起女を偶ひ沙の名聞
分速元の元装をすく国女
より又第子并の他を勝る
支考性義分抱沙部を
てもも命ひ之を
く今庭天香舟とをものあ

物子家もこうけ天ゝる七日三
十能度よおよみ度毎に表意
得申し
一沙部を湯を紀氏云五日新丈
子乙酉三月を本天寿く
もる寿く冷葛 時作の本や
沙討く魚子の寿切く新次
部を湯天保より消屋又紀
歌長薗委又云海米を年
習油二升拾一升味噌二升
新甘米炭甘月新銭二
米としてる沙冷 拾八沙
赤麺二貫 歌中すれ
十段より及ん
六日て食後時きつゝ
新の食乳麺三貫の歌
もすゝ麦粉入弱八杯
く価代しの月光より
本ををくたてんの沙野
ゐ寿より湯し 蓋作し大井川

の及けしをつひ[illegible]べうと
[illegible]ひ[illegible]こうし[illegible]
清滝や波よ[illegible]
と仕うしの句[illegible]
同系列と人の[illegible]
[illegible]れハ大堰川の句ハ[illegible]
と[illegible]
同女よりねのれて
[illegible]
とか[illegible]
句の[illegible]
を一向よ[illegible]
[illegible]
[illegible]
匠のかく[illegible]
[illegible]
[illegible]
悩の中[illegible]
[illegible]
[illegible]

一　十番の花合に云　十日新うつり不お
題の歌をし帰うて四新茶
寸延遅四よ加減又乳麺をこの
みす上国安うつ元落として茶
るお勝く者こ次第こ為元計く
之花よ勝る異類者こ十末数
第して長代国女御の方渭川者
十茶文考會絵す後に茶を
めさせ新なくも新よ入くく人者も勝あり
時る新よ入くく人者も勝あり
れ八灯のもとれ人く仏して花
こうしあ西京ホ十茶三ヶ月
うとと殿内もし泉ホの茶と
命こを新ケ代御の御雅この
まうけ作こんす茶碗こく
茶さうここ新もそくの四こか
アこ名二ヶの消息とこもと点
新茶ホ十おうこう人こもた
ちひ新やさけこ八そ歌不神
命う只今の徒はおそこ中こ人



こ牧渡元東四こ滅毎の流世を
四茶こんとこ者こう拙上すこ
かんひうて操姫をここひ四
ヤうう新次郎こ鳥おこされ
鳥つとまのくく四流世の変化発
アこ中こ者れ者こ者れ中こ者
三をこ和をこ代こ三ようこく
中変万化すこ系ひホこ茶を
めくこさに海世ひ海とこも
快をこ命ここと命こ代世こ
世八社こ変の表を見ひさひハ
西上人のこ世ひを者こひ朝業
平ここ俳をこつこうすて
も命ホ茶こ海こと命ひゆ色
し代こ化をこここ化をここ命これ
云ここここ行れこも点蜘この
命八代と喝ホ命ひこれ八春舟
四こをここ海こ命こ海こ又茶をホ命
をこ者こう中こ海こ中こ海こ者を
牧こもこを出

一昨年の冬八月て事件ありて不
合し京の拙士来る作歌より
作見せまくの為仲を同近江
の前上てう使来る人て待る
間さてと後の四月芳西源左衛
門ようと仕方大坂神戸を
中ようと人を立へ〳〵と立来り
おて〳〵れいをいおのし越うし
とゝ立を次郎兵衛八郎ハ
こそ社勢林業女方の教授を
たのみ居く神戸の西く帰る
各様

奉納

歌まやかゝ多年神戸の
神宮ゝやそ宮ゝ
あれけ年略のさ
起さゝ家もこれ
み仏や使つれて
居坊ゝさみ付ゝ
見ゝゝ仏のゝ



神の名をもたゝちゝや私の仏を
はゝすゝゝ宮すゝゝ
本ゝ
大船の集命たゝ
て沙を殿めゝ
ゝゝゝゝ
に沙宮ゝ宮力
とゝて孫仲ゝ
潮ゝゝ
根元神賢の
夜し有ゝ遊
加藤ゝゝ
力ゝゝ
ゝゝ
沙日本ゝ
いゝ仏方
を聖すゝ
平沙神を
かゝゝ
神方を張

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一十六日記云十日神時自ゑり出数
の船すりの[illegible]後あ[illegible]一人も
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中絶合ゐるよ係よ食のすしむす
ゆるゝハ惡病し死絶をゆゆし
とゆゝうさハ〳〵沢おのくさあ
よ形〳〵るよ形ゆゆ沢ゆゆ歌を
懸縣未ゆゆゝ歌ゆゆ又宮
ちのとくゝとすひ懸くハ胸孔一
人も尺多ゝ五ハさうしら良ゆく
て又宮病ゝ歳ゆひ大古ゝ今
病赤舟ゝしろよう次部ゝ清抱
よゝゝゝゝて分抱しほとゆく
歌ゆゆれ八十二ゝ巡てハ閑紙
ゆゆひゝうゆゝての隆るも
漑もゝれゝれさを甘八角七未史
叶をゝれくゝて向ゆゝ人ゆひ稼
をゆゝのれハ惡ゝ人ゆゝれとと
ゝう行ゆゝを中ゝをゝみゆゝ本長ゝ
きゝに赤ゝゝれゝゝゝきゝに
中みゆよゝ歩ゝとをゝハ沢を
ひゝをゝゆゝゝをゝゝゆゝを
に沢ゝゝゝゆ本ゝの醫術を西

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一出山佛一軀　高七寸一分
一鐵砲壹一挺　外形長五寸
　　長き押延て孔一尺九寸位既
　　長き取金箔本ゆる五寸卅
　　ゆる
一觀音軸　小形一幅
一紙繪袈裟　仏頂経ゆる
一被物　一組拵　一口
一本硯　柳本すそ模様

一古今集序註　一部
一百人一首　一部　一新式　一部
一真名序二部　一伊呂二部
一菅笠　一被　一伊杖　一本
右我隠家宝ともいふべき物なれば世人の出給ふ
ものしるべ真名性愚よ消息
一伊陀陀　一
中は柱を美詩集山家集部
好物みのと称ひて弘仙宅
を渡白四を仏法と称ハ出拵
の反故ハ入の紙は包る布
刻を寸六寸許上包渡ノ細布
とゆり選上信紙とる又部
和歌の古紙冊二枚松島帰宅
の繪二枚
右の内我は包る五寸ゆり
六寸の布刻并松島帰宅
更ゆるの巻ゆ巻ゆ報
及ゆ我ゆ信付のもし拵



帯は生涯交物に使ひて十来
一鳥羽文箱出　一脚黒塗
也一尺九寸幅一尺二寸る四寸板
厚三分筆及一尺八寸
去青は下より紙巴に作付まう
良尾良意孝吟芭蕉翁
芭蕉翁一代弟子の俳序に用
ひるひしゆ乳一結るよ巻み
の集撰成能の芳原門より有
難ハ巻の御古用ひるされい
のことをもやに義仲寺ゆ云
墨れいと云く
但こ方有限二方ホハ小指之紙
一方ホハ小き拵に四寸の角扶
しゆり

夜変神

墨引長ト共ハ中古流の夏
立ト云て云まりみさりて
て印を用ゆるものゆ今文
一変ーーーーーつて幻住庵の
句筆ハ心秀尚白ホうもと
めホ意して句ホ句ホ(ま)あれ引
墨を西ー流派ハ十五ホの
句ホを分て変ゆハ桃青こ
ゆゆゆーーまきそめることおもふ
へうーに

し一点

初心の風子五ゆ七字ゆもゆ
扨ホく対の句形ゆ句ハ
此墨引を用ひゆーー志ゆきゆ
ハ俗ゆ弘ホゆと考ーんの

ん

二点ハ夜用ゆ許ー弥ホあれハ
三点ホ及ふ句ホりホーー金箱
の楚ゆも尺ゆうゆきゆ



○嘶鴉

二字印ハ初て白玄の楚の川ゆ
と云へゆ此ゆ新ーき付の風
とゆき附合ホ人ホ場の中ハ
句にも出すべき用もホく能を
能とあーーすゆ丙己欲

○岳楚月

三字印ハ六印の高ホり付ホ付
帝ホろーくゆひうホて稲美の
付ゆ用ひゆ侍撥相の両用ホ
押もゆへー

○芙蓉樓雪

四字ハ八印ゆ天相説ホ侍ホろ
ゆ扨を楚の秀逸ともカ宝あ
のくきそ付ハ虫扶

○長安夕鐘華

五字印ハ全箱玉の玉たるゆを
挙ゆホもホす

○舟登成帆土成風能芭蕉哉

芭蕉の舟ハ貞享のむーーホ武の

徐川おして市ゐ尼蓋の号と世に呼れ今更薩摩くく十五郎の種根よ家すゑし教てハ三島も楚とんぬんかゐる白をハお者仮器してを拙あゝくよに也蕉白附合よ蕉下此多をつるゆハ人の此ゐてを多拙よくくんぬゝ

桃青

附言

右の蕉変海ハ蕉翁正伝とて世に伝写し人のちゐ雨し然ともを文化金第五くく拙よハ門人の附會せるものゐくんもをゐりくこれよのきくこれ翁正伝とゐひもてをやす書籍おゐくこれとゐもいちをきを文伝をゐれよせきゐをの多くゐるを敬ひ反をおもへ八条忌小説を伝よくんや文に蕉翁の古御ある伊賀の玉菊堂

未のゐのよ伝ゐりし芭蕉翁の引要をかゝられ一俳諧の一巻ゐりと見えましとに翁の更ゆ未も可きものゐ蕉よを疑変海と大同小異あれハゐの文孫を九ひもとめて九ゐりて載す去用亦らくゐんゐてゐろきにゐるゐ

ゐ

二十五点

内　名七

〇四

朱

ゐ

芭蕉庵桃青

俳諧袖珍抄　大尾

嘉永五年子春

發　行　書　林

江戸日本橋通壹丁目　須原屋茂兵衛
同　芝神明前　岡田屋嘉七
同　日本橋通二丁目　山崎屋佐兵衛
同　本石町十軒店　英　大助
京都二条通烏丸西入　林　芳兵衛
同　寺町通五条上ル西　山崎屋佐兵衛
大坂心斎橋通北久宝寺町角　河内屋茂兵衛
同　心斎橋通北久宝寺町角　河内屋義兵衛
紀州和歌山　常屋伊兵衛